

令和4年度 血液事業への取り組みについて



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

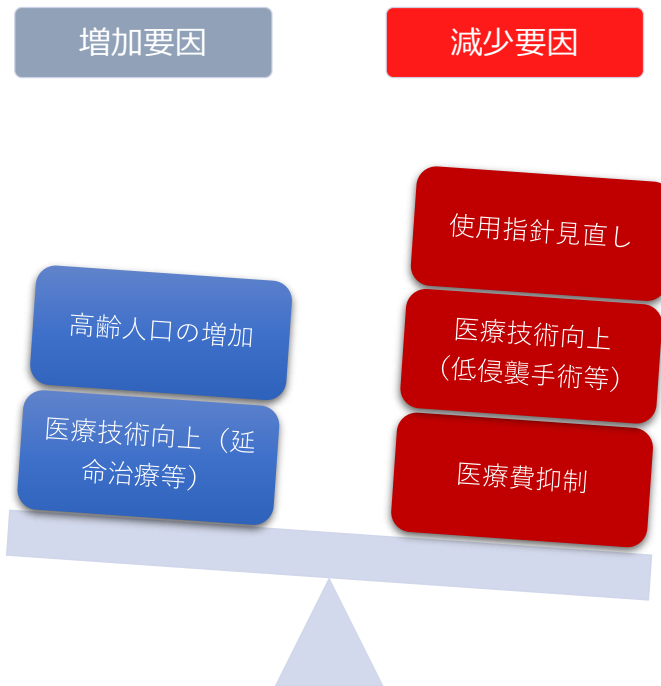
令和5年9月20日(水)
第2回血液事業部会運営委員会

1 令和4年度事業概要

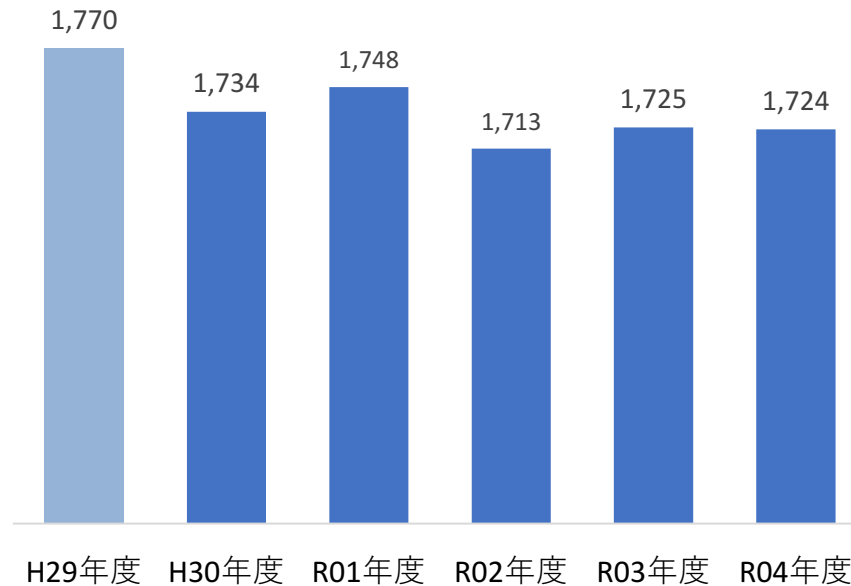
(1) 輸血用血液製剤の需要動向

輸血使用量の多い高齢人口が増加しているが、医療技術の向上、適正使用の推進等により、この数年、漸減傾向にある。

輸血の需要状況



輸血用血液製剤の供給量



今後も漸減傾向

製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数
FFP-LR120は1単位、FFP-LR240は2単位、FFP-LR480は4単位として換算

(2) 供給状況

血液製剤 供給状況

- 赤血球製剤 650万本
- 血漿製剤 209万本
- 血小板製剤 865万本
- 合計 1,724万本**

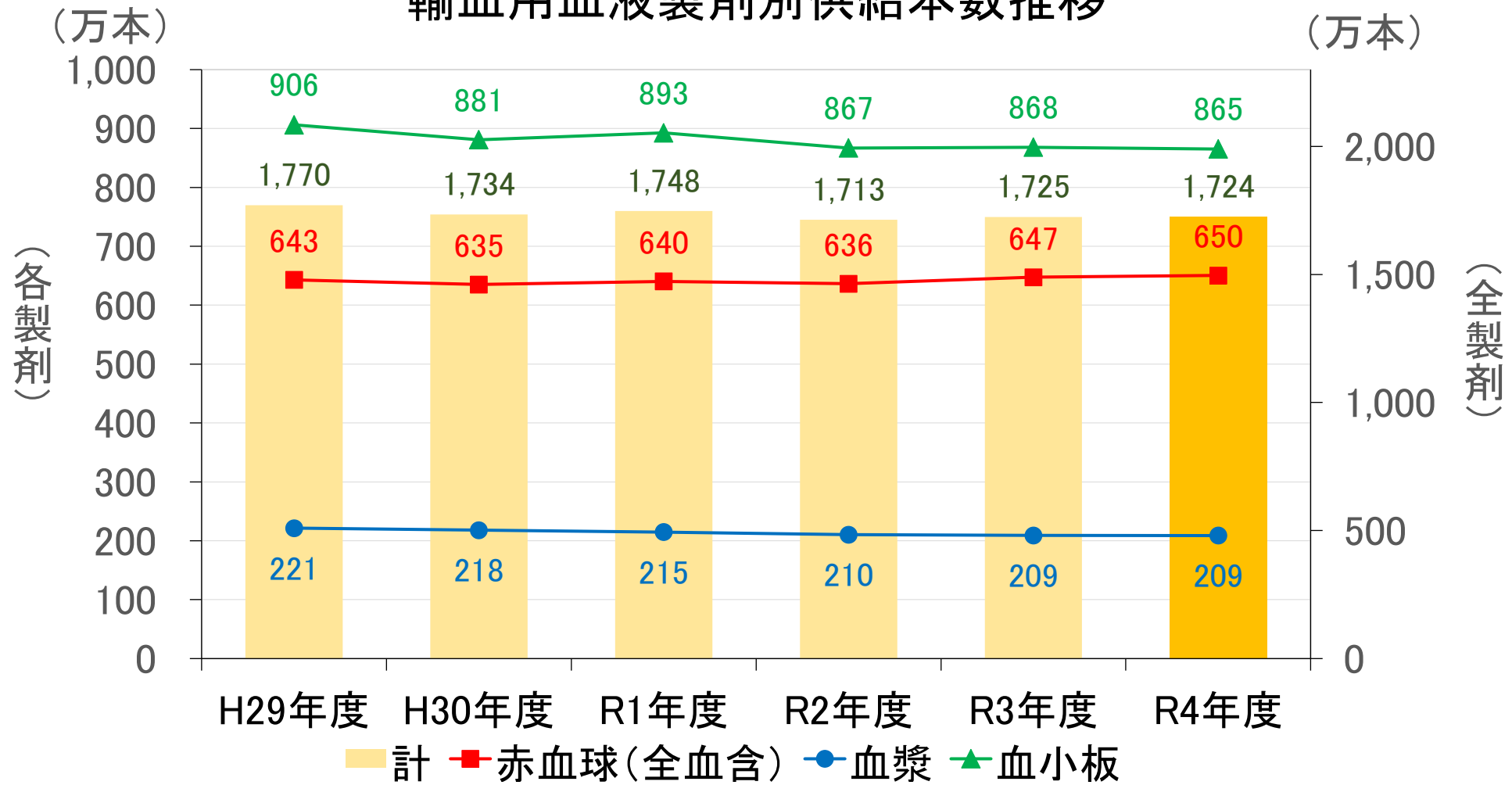


原料血漿 確保状況

- 凝固用 20.3万L
- アルブミン・グロブリン用 105.6万L
- 合計 125.9万L (送付量122万L)**



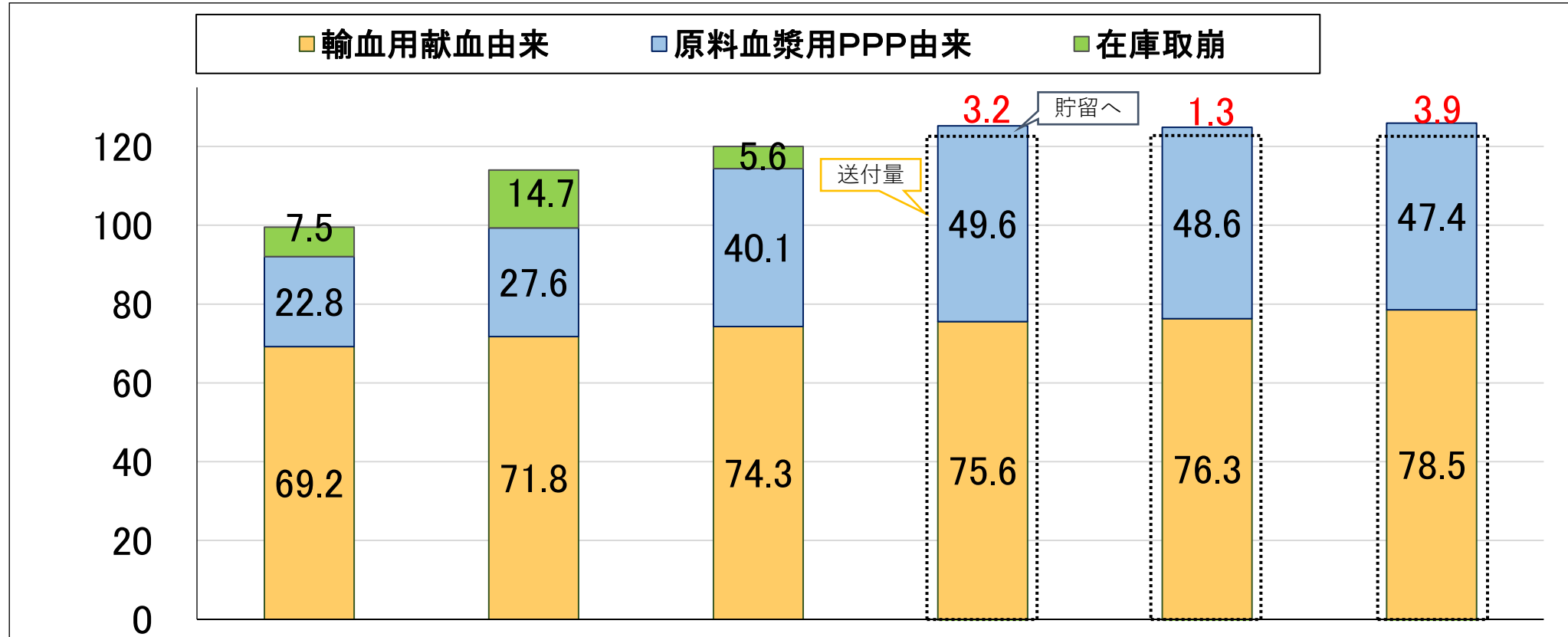
輸血用血液製剤別供給本数推移



製剤本数は200mL献血由来を1本とした換算数。FFP-LR120は1単位、FFP-LR240は2単位、FFP-LR480は4単位として換算。

血漿分画製剤用原料血漿の確保及び送付状況

原料血漿確保量・送付量(万L)



	H29年度	H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
確保量	92.0	99.3	114.4	125.2	124.9	125.9
送付量	99.5	114.0	120.0	122.0	123.6	122.0

※1 端数処理により合計値が不一致となる場合があること。

※2 R2年以降の確保量は血液法改正に伴い、「製造所から貯留施設へ送付した量」に変更されたこと。

(2) 献血協力の状況

献血協力

- 200mL献血 12万人
- 400mL献血 330万人
- 成分献血 158万人
- 合計 501万人**

※端数の関係で合計値が必ずしも一致しないこと



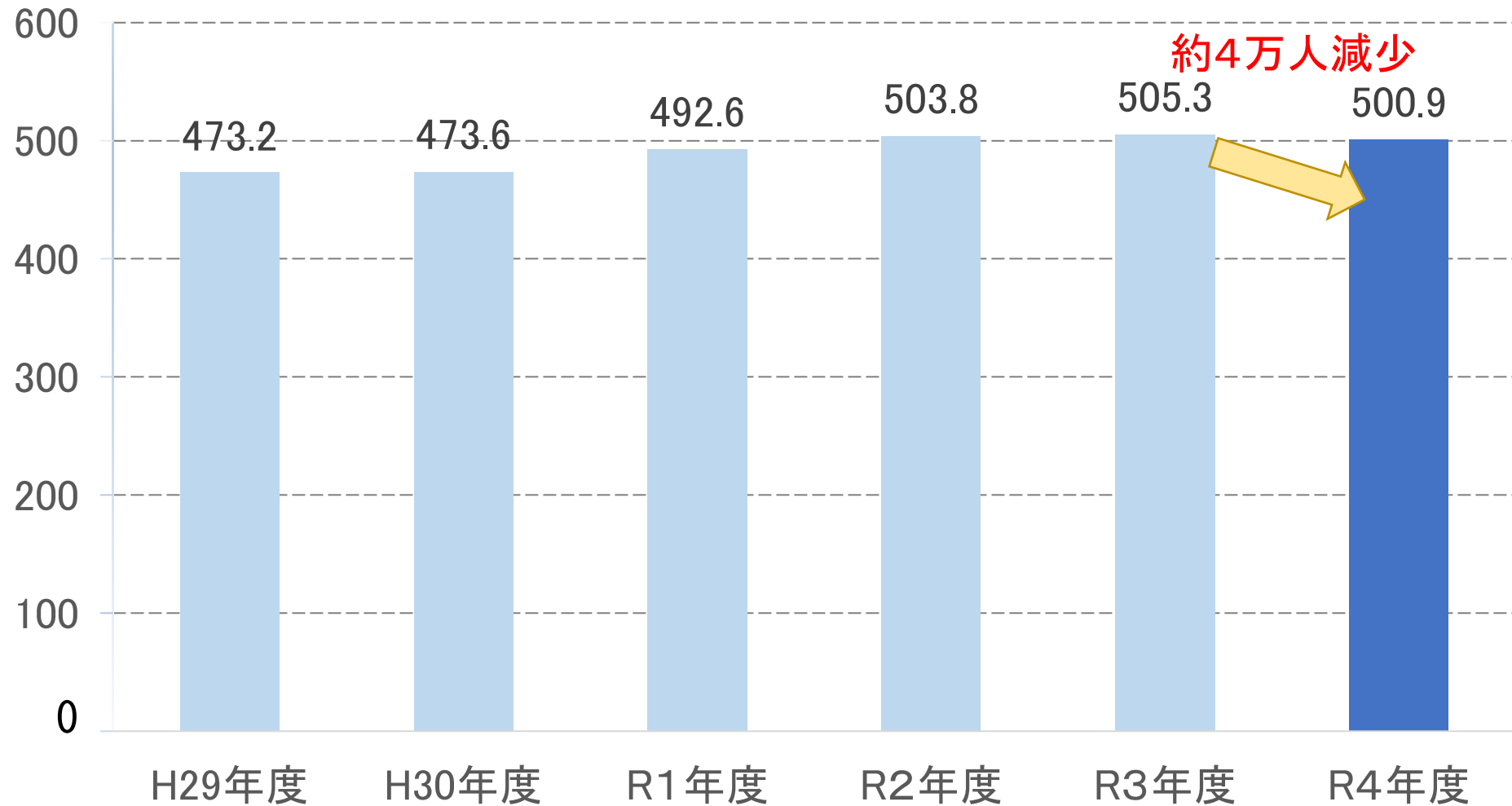
成分献血 内訳

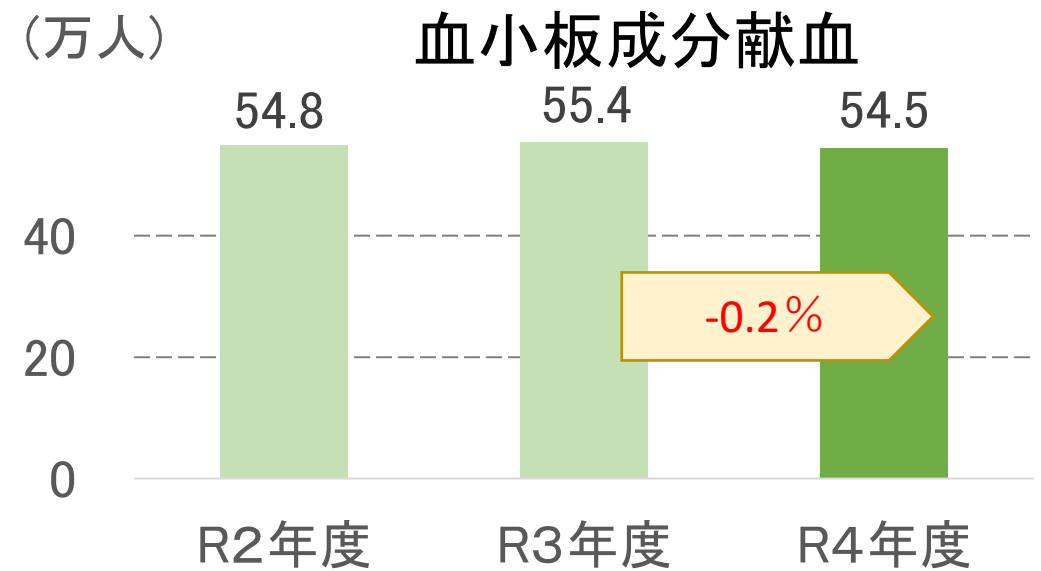
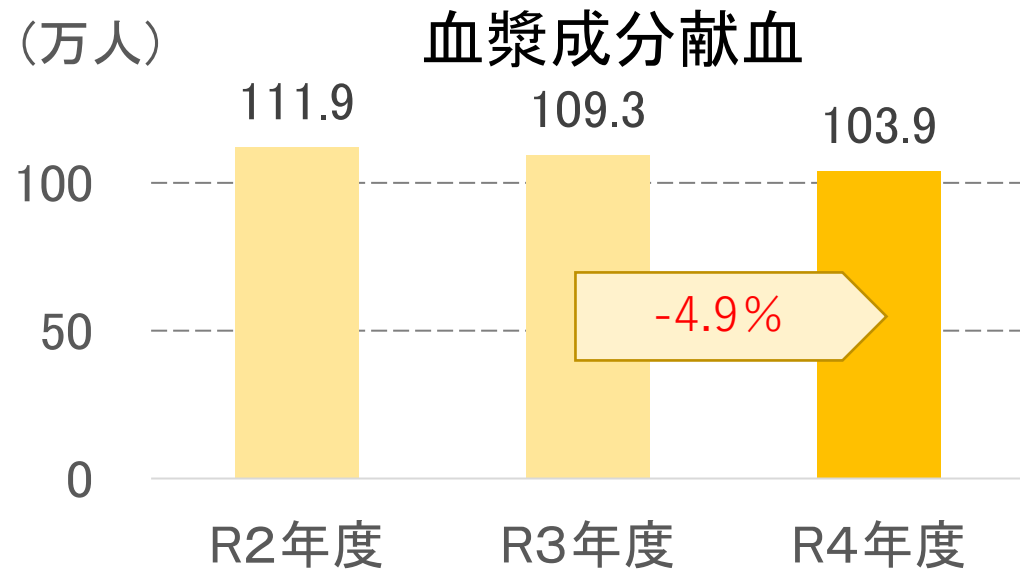
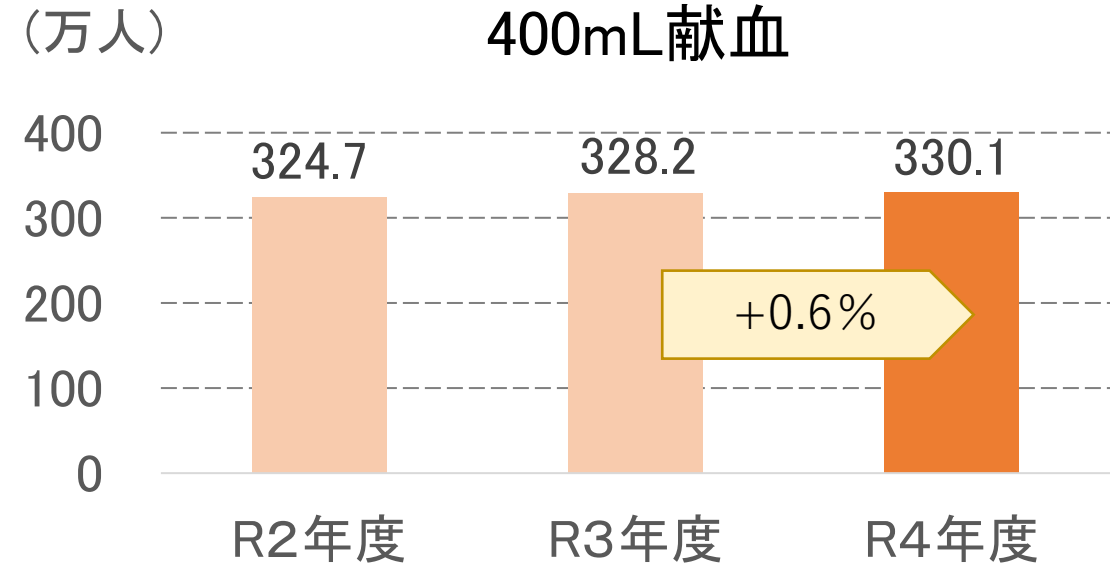
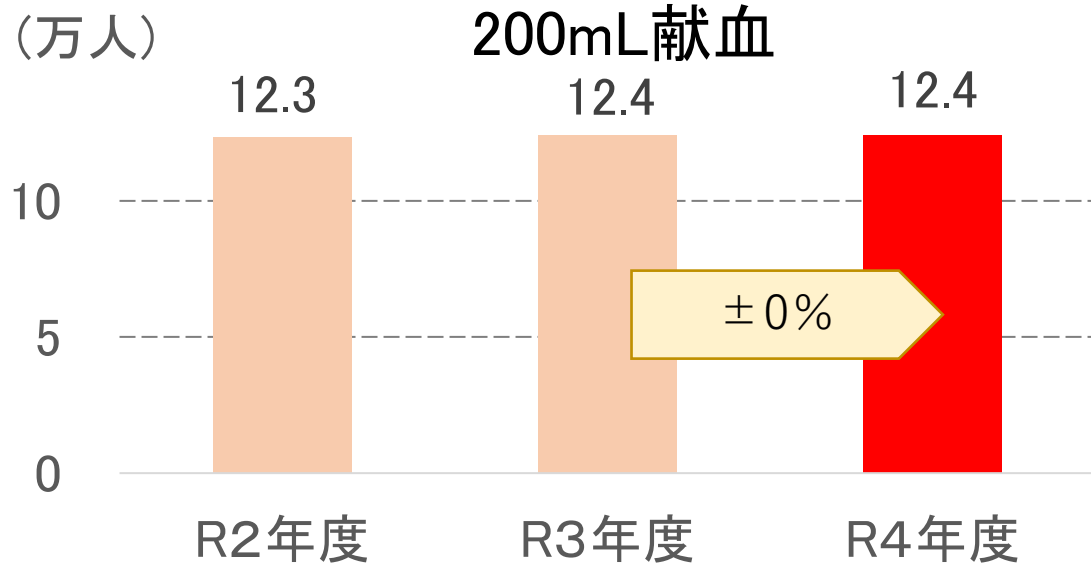
- 血漿成分献血 104万人
- 血小板成分献血 54万人



(万人)

献血者数(合計)





(3) 令和4年度に実施した事業内容

ア ポスト
コロナに
適した
必要血液量
の安定確保

- (ア)「新しい生活様式」の定着による
事業環境の変化を踏まえた献血
推進方策の実施
- (イ)都道府県の枠組みを超えた
広域的な献血血液の確保
- (ウ)献血予約の推進
- (エ)原料血漿確保専用献血ルームの
設置



(ア) 事業環境の変化を踏まえた献血推進方策の実施

在宅勤務やオンライン授業を前提とした地域に根差した
献血会場での実施や、居住地近隣の献血ルームへの誘導



東京都では都内各地の神社での献血を実施

(イ) 都道府県の枠組みを超えた広域的な献血血液の確保

企業や団体に働きかけ、都道府県の枠組みを超えて広域的に
献血の協力を依頼

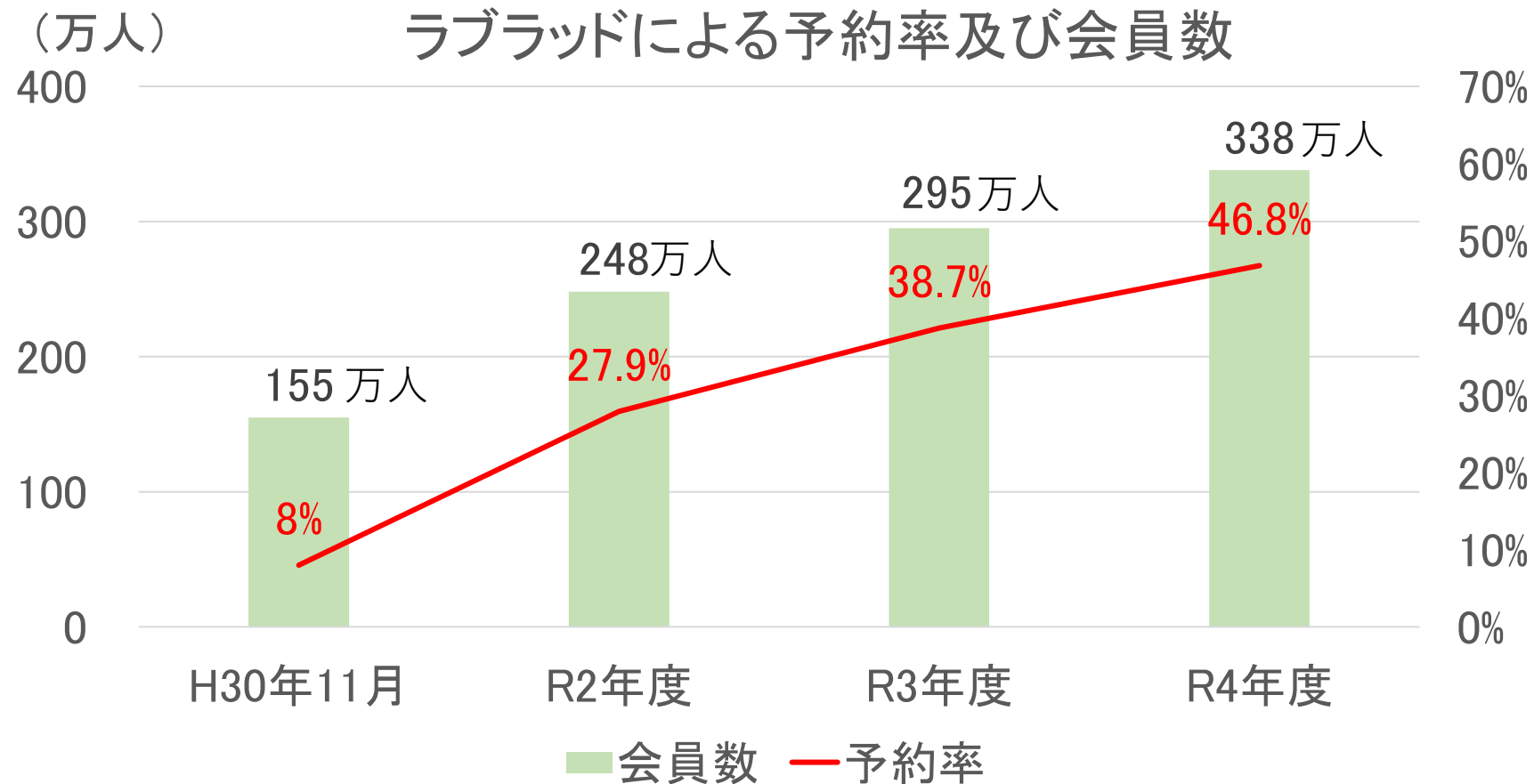
「#ユニクロ献血」の実施

全国25都道府県のユニクロ店舗で
献血を実施した。
42会場で、約1,800名の方にご協力
いただいた。



(ウ) 予約献血の推進

献血WEB会員サービス「ラブラッド」の新規会員募集や次回予約献血を推進



(エ) 原料血漿採血専用ルームの設置

原料血漿の安定確保のため、原料血漿採血専用ルームを設置することとし、令和5年4月には大阪府、5月には東京都に開設した。



令和5年5月 東京駅八重洲口に新設した原料血漿専用献血ルーム

イ 将来の 献血基盤の 構築

(ア) 若年層を中心とした献血の
普及・啓発

(イ) 献血セミナーの実施

(ウ) 献血未経験者への情報発信



(ア) 若年層を中心とした献血の普及・啓発

◆令和4年度献血推進プロジェクト 「めぐる献血」の展開

・期間

令和4年9月7日(水)～

令和5年4月30日(日)

・ターゲット

メインターゲットは10代～20代の
若年層世代

いのちを繋ぐ、感謝をつなぐ。
めぐる献血
PROJECT



「めぐる献血」のポスター

(イ) 献血セミナーの実施

- ◆ 献血セミナーの質的向上と実施回数を増加し、将来の献血の基盤となる若年層へ献血の啓発を行った。
令和4年度は全国で、約1,700回実施した。



北海道の高校で実施した献血セミナーの様子

- ◆ 輸血経験者であるフリーアナウンサーの笠井信輔さんによる献血セミナーを実施し、闘病中の実体験を伝えていただき、献血の大切さを直接訴えかけた。

(ウ) 献血未経験者への情報発信

献血WEB会員サービス「ラブラッド」に 「プレ会員」制度を導入

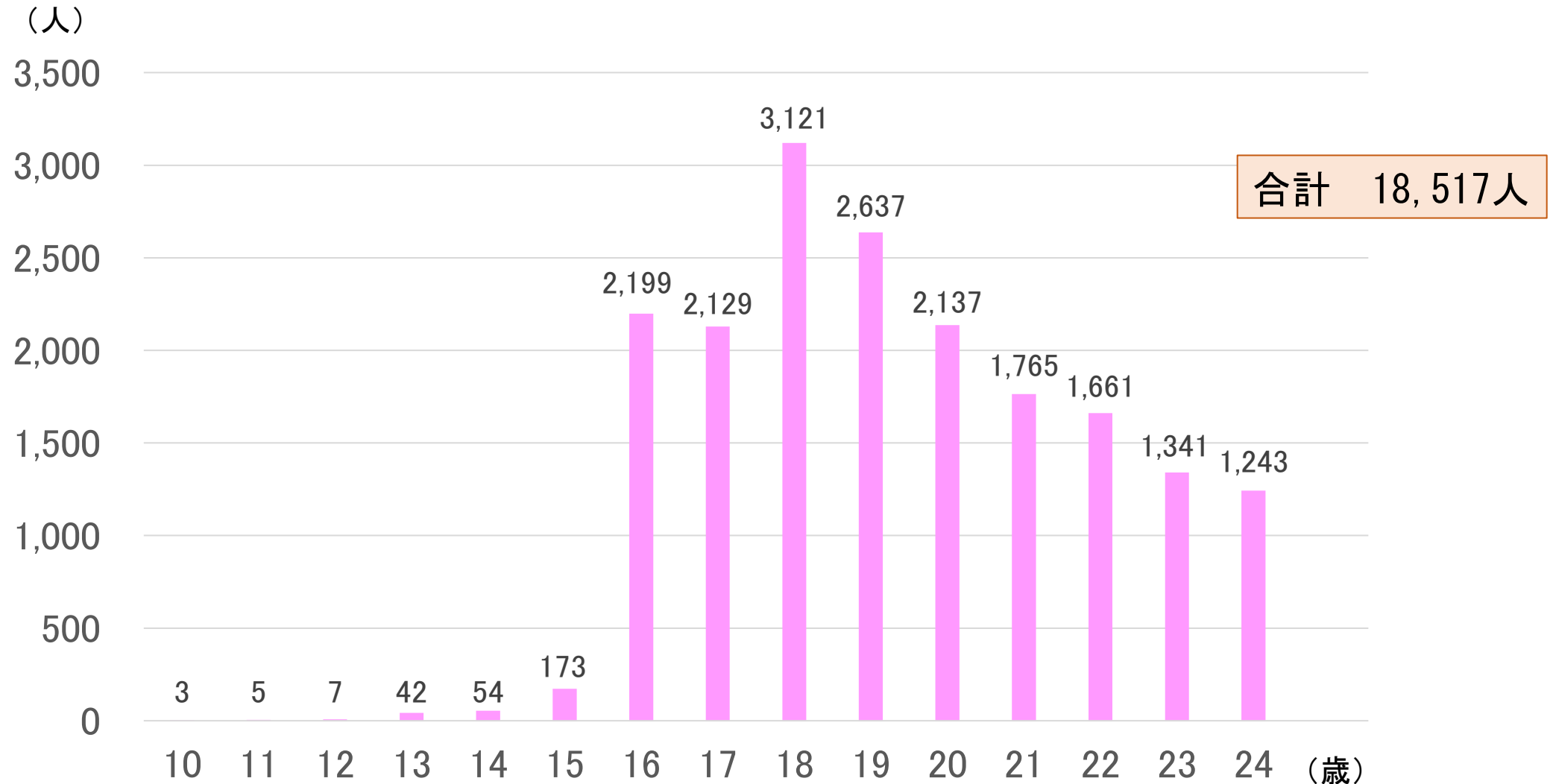
「プレ会員」制度とは
献血可能年齢に満たない方や
献血未経験者でも
登録できる会員制度

- ◆毎月更新されるクイズや献血に興味を持てるコンテンツを提供
- ◆イベント参加やボランティア募集機能により、赤十字との接点を持てる。



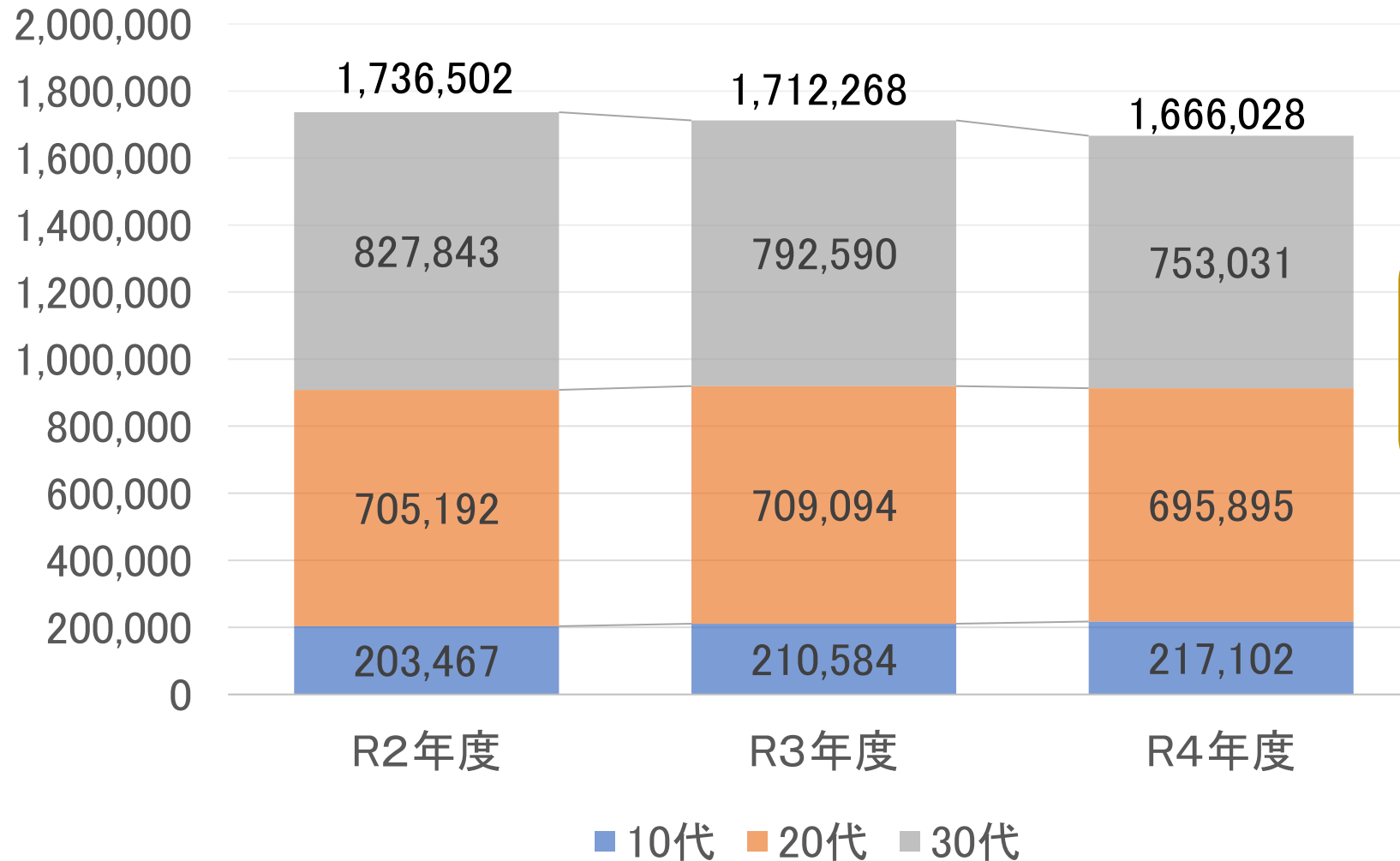
「ラブラッド」の
「プレ会員」の画面

令和5年3月末時点の年齢別プレ会員数（10～20代前半）



(人)

若年層献血者数の推移



若年層の献血者が
年々減少

**ウ 血液
製剤の
安全性・
品質の向上**

(ア) 細菌スクリーニングの導入の検討

(イ) 赤血球製剤の有効期限の延長



細菌スクリーニング用機器
「BacT/ALERT VIRTUO」

(ア) 細菌スクリーニングの導入の検討

- ◆細菌スクリーニングを血小板製剤に導入するため、適格性確認試験を開始
- ◆施設整備・機器整備に向けた契約準備

(イ) 赤血球製剤の有効期限の延長

献血血液の有効活用のため、有効期限を21日から28日へ延長

工 事業の 効率的な 運営の推進

業務の見直しを踏まえた次期基幹システムの設計開始

次期基幹システムの目的

- ◆業務の見直しを踏まえたペーパーレス化・業務の自動化により、人による業務の削減と過誤防止
- ◆業務データの分析・活用による更なる業務の標準化と効率化の実現
- ◆開発事業者の決定
- ◆「システム要件定義書」の完成

2 血液事業特別会計歳入歳出決算

(1) 令和4年度決算の概要

	令和3年度		令和4年度	増減額	増減率
収益的収入合計	1,659億円	→	1,659億円	0円	0%
収益的支出合計	1,545億円	→	1,637億円	91億円	6%
収支差引額	113億円	→	21億円	△92億円	

令和4年度	
資本的収入合計	127億円 (自己資金117億円、補助金等収入10億円)
資本的支出合計	127億円 (固定資産支出124億円、借入金等償還3億円)

※1億円未満切り捨て

※端数処理により一部合計値に差異が生じる場合があること。

(2) 令和3年度収支との比較(事業収益/事業費用)

事業収益の減少

△2.2億円

ア	赤血球製剤の収益増加 (3.0万本増加)	2.9億円
イ	血漿製剤の収益減少 (0.3万本減少)	△0.1億円
ウ	血小板製剤の収益減少 (2.9万本減少)	△2.5億円
エ	原料血漿の収益減少 (1.5万L減少)	△2.6億円

事業費用の増加

89.5億円

ア	人件費	51.0億円
	・退職給付会計の決算整理額差異による増加(57.4億円) ※R3: △54.4億円、R4: 2.9億円	
	・退職給付費用の期中計上額の減少(△4.5億円)	
イ	材料費	△2.7億円
	・採血数の減少に伴う材料費の減少(△2.7億円)	
ウ	経費	43.0億円
	・委託費の増加(25.7億円)	
	・減価償却費の増加(12.5億円)	
	・光熱水費の増加(7.4億円)	
エ	たな卸調整額の減少	△1.8億円

※ 端数処理により一部合計値に差異が生じる場合があること。

(注) 内訳は要因の一部を記載しているため合計額とは一致しないこと。